

世界平和へ荘厳な祈り

誼訪神仏プロジェクト 報恩法要と講演会

江戸時代まで誼訪神社（現・誼訪大社）とともにあった神宮寺由来の仏像や仏具を一日限りで公開する「誼訪神仏プロジェクト」（28日）を前に27日、報恩法要と講演会が誼訪市四賀の仏法紹隆寺であった。神仏と、同プロジェクトの実現に尽くして芳名帳に名を連ねた人たちへの感謝、世界平和の願いを込めて僧侶、神官、修験者約25人が一堂に会し、荘厳な祈りをささげた。

（日比野真由美）

法要は約150年前に神宮 賢菩薩像を囲み、日頃は非公寺から迎えた上社本地仏・普開の仏像も開帳して「観首経

を唱えた。檀徒や一般の参拝客らも参列。講演は照光寺（岡谷市）の宮坂有洪住職と、誼訪大社の原弘昌権宮司が話した。

プロジェクト賛助会の佐久秀幸会長（長野日報社会員）は「国内でも稀有で大きな反響を呼ぶこのプロジェクトは、1000年超にわたり誼訪大社、寺院へ誼訪の民が寄せる信仰と気持ちの結実。日本の歴史を紡ぐためにも継続させたい」とあいさつした。

仏法紹隆寺の岩崎有全住職も「当寺の歴史にとっても新たなページを刻む法要。唐山が続く限り誼訪の信仰を守りたい」と述べ、檀徒総代会の小池政貴会長（73）＝誼訪市城南＝は「誼訪の信仰に触れる機会。多くの人に『誼訪で面白』ことをやっている」と思ってもらえたら」と期待を込



僧侶、神官、修験者が一堂に会し、祈りを捧げた法要

めた。芳名帳にはプロジェクトの実行委員や奉賛者、僧侶、神職など300以上の個人団体が名を連ね、1年ごとに19の

寺社が持ち回りで保管してプロジェクトを継承する。法要の席で佐久賛助会長がくじで引き継ぎ先の寺社を決め、慈雲寺（下誼訪町）が受けた。